

マナーを守って観察しよう！

いきものを傷つけずに観察を楽しめるよう、以下のマナーを守りましょう。

餌付けをしない

いきものたちは自然の中で自力でエサをとって生きています。人がエサを与えると、栄養バランスが崩れたり、特定の種だけが増えすぎて生態系を乱す原因になります



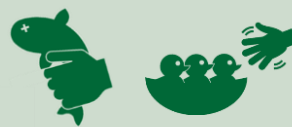
むやみに採取しない

採取が可能な場所であってもむやみに摘み取らず、自然に落ちた葉を採取したり、写真やスケッチで記録に残しましょう



いきものへの影響を最小限に

触りすぎたり、子育て中の動物や巣に近づくなど、いきものを傷つけたりストレスを与える行為は控えましょう



周囲に迷惑をかけない

観察や撮影に夢中になり通路をふさいだり、ゴミを放置するなど、近隣住民や他の利用者へ迷惑をかける行為は控えてください



希少種の情報の

取り扱いに注意する

希少種の情報は、盗掘・盗採（違法な持ち去り）を防ぐため、詳細な場所をSNSなどで公開しないようにしましょう



※Biomeアプリでは希少種の地点情報は自動的に非公開となります

引っ付き虫はその場で落とす

服や靴についた「引っ付き虫（種子）」は移動する前にその場で払い落としましょう。意図せず植物を広げてしまい、地域の生態系を乱す原因になることがあります



危険生物について知ろう！

日野町の豊かな里地・里山には、自分たちの身を守るために毒を持っていたり、近づくと攻撃してきたりするいきものもいます。彼らの習性を正しく知って、安全に観察を楽しみましょう。

生物	対策	対処
スズメバチ、アシナガバチ	黒い色や強い香水（柔軟剤の香りも含む）に興奮する性質があります。白い帽子・明るい服を着用し、香水の使用は控えましょう。	大声を出す、手で振り払うといった行動はハチを刺激します。姿勢を低くし、静かに後ろに下がってその場を離れてください。
マムシ、ヤマカガシ	長袖長ズボン、長靴や手袋を着用します。足元の見えない草むらに不用意に入ったり、手を突っ込むのはやめましょう。岩場に手をつく際も、これらのいきものがいないことを確認しましょう。	見つけても近づいたり、棒でつついたりしないでください。噛まれてしまった場合は、ポイズンリムーバーですぐに毒を吸いだします。
マダニ	長袖・長ズボン、帽子の着用が最大の防御です。服の裾を靴下の中に入れるのも効果的です。	噛みついているのを見つけても、無理に引っ張らず、すぐにスタッフに知らせるか、病院で処置してもらいましょう。
毛虫（ドクガ、イラガなど）	「毛が生えているイモムシには触らない」が鉄則です。長袖長ズボン、帽子を着用していると、うっかり触れてしまうことも防止できます。	万が一、触れて激しい痛みや痒みが出た場合は、こすらずにすぐにスタッフに伝えてください。
かぶれる植物（ウルシなど）	名前や種類が分からない植物の葉や茎を、素手でむやみに触らないようにしましょう。手袋の着用が効果的です。	